

「誠之坂プロジェクト」を結成

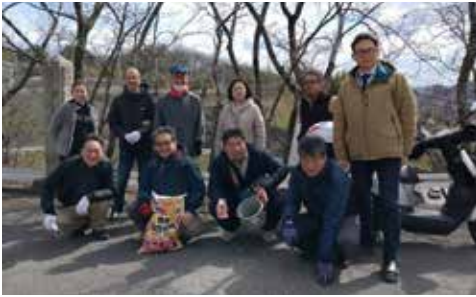
「誠之館の桜」復活へ活動開始

リーダーは松本実覚・副幹事長

福山誠之館同窓会（福山市木之庄町6-11-1・広島県立福山誠之館高校内、柿原博樹会長、電084・991・1560）は、平成卒（1989-2019）世代の同窓生を中心にこのほど、「誠之坂プロジェクト」を結成し、かつて同校の構内で咲き誇っていた「誠之館の桜」を復活させる活動を開始した。

プロジェクトリーダーは、松本実覚・副幹事長で、メンバーは約50人。3月2日、島田 斉副会長をオブザーバーに、構内の桜の樹木に施肥したほか池の周りを清掃し、老朽化した樹木の伐採を依頼した造園業者から今後の手入れの方法や、植樹について指導を受けた。4月13日（土）には30本の桜の苗木を通称「誠之坂」付近に植樹する。

今後、植樹して50年が経過した桜の木のメンテナンスや植樹を始め、今回の活動に賛同する同校の生徒や卒業生に対して様々な支援



清掃活動に参加した「誠之坂プロジェクト」のメンバー

活動を模索する方針。

誠之坂プロジェクトは「誠之館の桜」について次のように解説した。

【最初の植樹から現在】1968年に誠之館高校が三吉

町から木之庄町に移転する際、同窓生が桜100本を植樹し、水やり等のメンテナンスを続け、見事に根付いた。

その後、徐々に本数を増やし最盛期には約250本の桜が咲き誇り、誠之館の名物となった。しかし、桜の老朽化が進み安全性の確保のため約150本が伐採された。現在は誠之坂に約90本、その他の場所に約30本の古木（一部は伐採した古木から新芽が出ている）と、約20本の苗木が育っている。

【その後の主な植樹について】2004年に、創立150周年を記念してBグラウンド東斜面に150本を植



「誠之坂」付近

樹したが、急傾斜地のため、その後のメンテナンスが出来ず、全て枯れてしまった。21年には50本を植樹したが、メンテナンスが十分でなく現在残っている約20本の生育が思わしくない。

今後の取り組みについて、松本リーダーは次のように語った。

「桜の苗は植樹後最初の3年間に水やり、施肥、草取り等のメンテナンスをしなければしっかりと根付かないため、既存の苗木も含めてメンテナンスを行う。桜（ソメイヨシノ）の寿命は約50年とされているが、枯れ枝の剪定、施肥、草刈り等のメンテナンスを行えば、100年以上は花を咲かせるので、木之庄校舎移転100周年を迎える2068年に、古木と若木が調和を保った美しい桜並木を実現できるように努力したい」。

校歌・応援歌・遠征歌7曲をYouTubeにアップ

また、福山誠之館同窓会は、コロナ禍で校歌などの



校歌・応援歌・遠征歌 14 曲を収録したCD

練習が出来なかった生徒のために、ドローン撮影をした校内の映像をバックに、校歌・応援歌・遠征歌14曲（CDに収録）のうち7曲をYouTube (<https://seishkan-dousoukai.com/school-anthem>) にアップした。曲は次の通り。①作詞家②作曲家。

- 第一校歌（①葛原しげる
- ②小松耕輔）▽第二校歌（①同②平井保喜）▽応援歌「陣鼓の響」（①福原麟太郎）▽同「備南の天地」（①上村貞章②鈴木けんご）▽遠征歌「春行楽の」（①高橋喜好②鈴木充形）▽記念祭歌（①楠正一）▽福山中学校校歌（①樋口慶千代②楠正一）。